

【予稿集】

## 大学はどのような司書を養成しているか

### 司書像と養成選択科目の調査

下山佳那子\*†, 赤山みほ\*††, 野口久美子\*†††

\*八洲学園大学 生涯学習学部

†shimoyama@yashima.ac.jp ††akayama@yashima.ac.jp †††noguchi@yashima.ac.jp

本研究では、司書養成科目を開講する 153 大学のウェブページを調査対象とし、1) 司書像としてどのような説明がされているか、2) 司書養成科目のうち選択科目としてどのような科目が開講されているかを調査することで、各大学がどのような司書を養成しているか明らかにすることを試みた。司書像では、司書の概要が記述され、選択科目のうち図書館基礎特論、図書館サービス特論、図書館情報資源特論では、多様な情報資源や出版について多く扱われる傾向がみられた。

## What kind of librarian Japanese universities educate for? -Research on image of librarian and elective subjects on the internet-

Kanako SHIMOYAMA\*†, Miho AKAYAMA\*††, Kumiko NOGUCHI\*†††

\*Faculty of Lifelong Learning, Yashima Gakuen University

### 1. はじめに

司書は、図書館法（昭和二十五年法律第百十八号）4 条にて“図書館に置かれる専門的職員”と定義されており、かつ司書となる資格を得ようとする者は、図書館法施行規則（昭和二十五年文部省令第二十七号）1 条に定められている図書館に関する科目について、単位を修得しなければならない。2012 年 4 月 1 日の図書館法施行規則の一部を改正する省令（以下、2012 年改正）により、修得すべき科目は改正され、現行では必修科目群 11 科目 22 単位すべてと、選択科目群 7 科目から 2 以上の科目の修得が求められている。

#### 1.1 先行研究

司書養成の実態を調査した先行研究としては、2003 年度から 2005 年度にかけて実施された「情報専門職の養成に向けた図書館情報学教育体制の再構築に関する総合的研究 (LIPER: Library and Information Professions and Education

Renewal)」(以下、LIPER) [1]、日本図書館協会『日本の図書館情報学教育』(最新版は 2008/以下、JLA 調査) [2]、日本図書館情報学会『図書館情報学教育の拡がりと今後の方向性に関する調査報告書』(2017) (以下、JSLIS 調査) [3]等がある。

このうち LIPER および JLA 調査は、2012 年改正以前に実施されたものであり、現行の規定における司書養成の状況は不明である。また、JSLIS 調査は、図書館情報学教育の専門課程での教育の状況を明らかにすることを試み、8 大学を対象に調査を行っている。しかし、現行のカリキュラムについて、図書館情報学教育の専門課程を持たない大学を含む、日本の大学一般の現状を明らかにした研究はあまりない。

#### 1.2 研究の目的

本研究では、司書に関する記述、および司書養成選択科目（以下、選択科目）で扱われている内容の傾向を明らかにすることを目的とする。これ

らを明らかにすることで、日本の大学でどのような司書が養成されているか、概況を把握することを試みた。

## 2. 調査方法と分析の観点

調査の手順としては、各大学のウェブページから司書に関する記述と、選択科目に関する記述を収集し、分析した。なお、この調査における司書に関する記述（以下、司書像）とは、司書がどのようなものであるか、どのような司書を養成するかを説明する文章を表す。また、司書像と選択科目には関連性があるという仮説を設定し、分析の観点とした。

### 2.1 調査対象と調査期間

文部科学省による「司書養成科目開講大学一覧」には、平成 27 年 9 月 1 日の時点で司書養成科目を開講していた四年制大学 158 校の一覧が掲載されている[4]。これを基礎データとし、各大学のウェブページ等を確認し、司書科目の開講を確認できなかった 5 大学を除き、153 大学を対象として調査を行った。5 大学については、取得可能資格一覧に司書の記載がないといったことから、司書養成科目開講大学にあたらぬと判断した。

調査期間は、2017 年 12 月 21 日から 2018 年 3 月 31 日である。

### 2.2 司書像の調査方法

司書像については、サーチエンジンでキーワード「大学名 司書」を用いるか、大学ウェブページのサイト内検索でキーワード「司書」を用いて検索し、収集した。収集した文章を対象として、形態素解析のフリーソフト KH coder を用いてテキストマイニング（頻出語、共起ネットワーク、階層クラスター分析）を行った。

### 2.3 選択科目の調査方法

選択科目については、前節の司書像と同じページで確認できる場合もあったが、もしそうでない場合には、シラバスを対象として「図書」「司書」「情報」や科目名をキーワードに用いて検索し、司書養成の選択科目として開講されている科目を確認した。そのうえで、図書館基礎特論、図書館サービス特論、図書館情報資源特論の 3 科目のシラバスを閲覧し、科目で扱う内容を表すキーワードを付与した。閲覧するシラバスは 2017 年度のもを原則とし、隔年開講等の場合は過去の年度のシラバスを閲覧した。

この 3 科目の選択理由は、これからの図書館の在り方検討協力者会議による『司書資格取得のために大学において履修すべき図書館に関する科目の在り方について（報告）』（2009）において、授業担当者に当該領域の課題を選択することを求めている[5]ように、科目の自由度が高く、大学およびカリキュラム担当者の司書像が反映されうると考えたためである。

なお、開講科目名が省令科目と異なる場合であっても、シラバス等から対応が明らかになったものについては、分析の対象に含めた。

キーワード付与の際は、シラバスの概要と詳細（各回の授業内容等）を確認し、概要に適切な語がある場合には、それをキーワードとした。一方、概要の記述が抽象的で、主題がわかりづらい場合には、詳細からキーワードを抽出した。キーワードの付与数は制限しなかった。また、授業の内容に関するキーワードを付与することとし、授業の形式を表す用語（アクティブラーニング、PBL 等）は、キーワードの対象としなかった。

キーワードを付与したのち、同義語がある場合には分散しないよう一つの語へ統一を図った。

このような工程で付与・統制したキーワードについて、その適切性を確認するため、共同研究者による点検も行った。

## 3. 調査結果

### 3.1 司書像

司書像は、153 大学のうち 97 大学 (63.4%) で収集できた。司書について、図書館法で働く専門的職員であること、資料の選択、収集、整理 (分類や目録)、貸し出しや読書案内等の業務を行うこと、所定の科目を履修し、単位を修得することで資格が取得できること、生涯学習社会の中で重要な役割を果たすよう期待されていること、といった記述が見られた。図 1 には KH coder による頻出語の共起ネットワークの分析結果を表す。

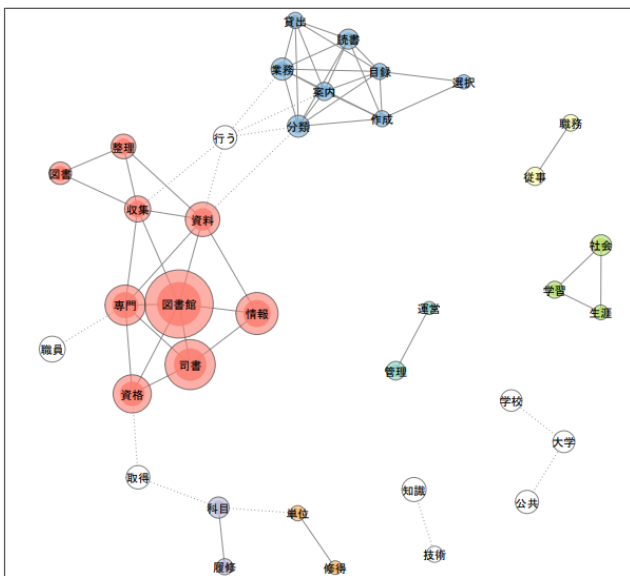


図 1. 司書像 (共起ネットワーク)

### 3.2 選択科目

図書館基礎特論は 70 大学 (45.8%)、図書館サービス特論は 60 大学 (39.2%)、図書館情報資源特論は 62 大学 (40.5%) で開講されていた。

以下の各項では、科目ごとに、説明が必要なキーワードについて記すとともに、5 回以上付与されたキーワードを頻度順にまとめた表を記す。

#### 3.2.1 図書館基礎特論

図書館基礎特論では、今日の図書館をめぐる現状や課題、今後のあり方等を広く扱う場合に「図書館一般」のキーワードを付与した。

最頻出キーワードは「図書館一般」であり、16 回出現していた。次いで、「図書館の自由」10 回、「情報資源 (電子資料、地域資料、灰色文献、障害者向け資料等を含む)」8 回、以下「著作権」、「情報技術 (コンピュータ、データベース、業務システム等を含む)」、「出版」はいずれも 7 回という結果であった。

表 1. 図書館基礎特論のキーワード

キーワード	回数
図書館一般	16
図書館の自由	10
情報資源 (電子資料、地域資料、灰色文献、障害者向け資料等を含む)	8
著作権	7
情報技術 (コンピュータ、データベース、業務システム等を含む)	7
出版	7

#### 3.2.2 図書館サービス特論

図書館サービス特論では、様々な図書館サービスの特徴、課題等を総合的に扱う場合に「図書館サービス一般」のキーワードを付与した。

最頻出キーワードは「障害者サービス」であり、11 回出現していた。次いで、「図書館サービス一般」と「児童サービス」が 10 回であり、これら 3 つのキーワードの出現頻度が突出している。

表 2. 図書館サービス特論のキーワード

キーワード	回数
障害者サービス	11
図書館サービス一般	10
児童サービス	10
多文化サービス	5
学校図書館	5

#### 3.2.3 図書館情報資源特論

図書館情報資源特論では、複数の情報資源を対象として特性等を解説する場合に「多様な情報資源」のキーワードを、また、学問分野ごとに資料を解説する場合は「専門分野の情報資源」のキーワードを付与した。

「多様な情報資源」が16回と最も多く、次いで「学術情報」11回、「専門分野の情報資源」10回、「地域資料」8回、以下「組織化」「情報の生産・流通・利用」「出版」はいずれも5回という結果であった。

地域資料や学術情報については、個別のキーワードとしても付与されているうえに、多様な資料の一部としても多く開講されていることから、特に取り上げる大学が多いことが分かる。

表3. 図書館情報資源特論のキーワード

キーワード	回数
多様な情報資源（地域資料、行政資料、視聴覚資料、学術情報等を含む）	16
学術情報	11
専門分野の情報資源（人文科学、社会科学、自然科学等を含む）	10
地域資料	8
組織化（分類法、索引法）	5
情報の生産・流通・利用	5
出版	5

#### 4. 考察

約6割の大学で、ウェブ上で対外的に司書像を明示していることが明らかになった。しかし、その内容としては、司書の概要に関する記述がほとんどであり、大学独自のものはごく少数にとどまった。また、大学独自の司書像を掲げている大学であっても、選択科目に付与したキーワードと関連する事例は少なく、仮説として設定した、司書像と選択科目の関連性は、本研究では確認することができなかった。

次に、図書館基礎特論、図書館サービス特論、

図書館情報資源特論 3科目全体の傾向としては、多様な情報資源や出版が多く扱われており、必修科目で学んだ内容を発展的に学習し、理解を深める観点からこのようなテーマが選択されていることが明らかになった。また、結果として、このようなテーマについて知識や技術を持つ司書が養成されていると言える。

#### 5. おわりに

本研究では、司書像と選択科目を調査した。今回の調査方法の限界として、ウェブ上で公開されている情報のみを調査対象としたため、科目の開講状況や位置付けについて限定的な分析になったことが挙げられる。今後の課題としたい。

#### 注・文献

- [1] 上田修一ら. “liper 報告書”. 日本図書館情報学会. 2006-01-23. <http://old.jslis.jp/liper/report06/report.htm>, (参照 2017-12-21).
- [2] 日本図書館協会図書館学教育部会編. 日本の図書館情報学教育. 日本図書館協会, 2008, 345p.
- [3] 図書館情報学会図書館情報学教育に資する事業ワーキンググループ. “図書館情報学教育の拡がりとは今後の方向性に関する調査報告書”. 日本図書館情報学会. 2017-03. <http://old.jslis.jp/publications/JSLIS-EduWG-Report.pdf>, (参照 2017-12-21)
- [4] これからの図書館の在り方検討協力者会議. “司書資格取得のために大学において履修すべき図書館に関する科目の在り方について（報告）”. 文部科学省. 2009-02. [http://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2009/09/16/1243331\\_2.pdf](http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2009/09/16/1243331_2.pdf), (参照 2017-12-21).
- [5] “司書養成科目開講大学一覧”. 文部科学省. 2015-09-01. [http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shougai/gakugei/shisyo/04040502.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/gakugei/shisyo/04040502.htm), (参照 2017-12-21).